

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 11月 20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491900142		
法人名	医療法人社団 岡崎医院		
事業所名	ふれあいの家 えんや		
所在地	広島県三次市十日市西三丁目13番1号 (電話) 0824-65-0722		
自己評価作成日	令和3年7月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3491900142-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3491900142-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年11月11日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

法人の理念である「その人らしく 生きる力に寄り添うチカラ」を念頭に、ご本人の思い・家族の意向を聞きながらその人らしく自立した生活を送って頂けるようにカンファレンス・振り返りを徹底することでケアの統一を図っている。その方の今までの生活を理解しながら、持っておられる力が発揮でき、楽しみのある生活を送っていただけるようにそれぞれの役割や活動、行事を大切にしている。法人のバックアップ体制により、事業所のみでのケアにとらわれず医師・看護師・リハビリ専門職・管理栄養士等の多職種との連携、また外部の関係機関とも助言や情報提供等関係づくりを行い、安心して生活して頂けるよう体制を整えている。また「地域とともに 地域のために」の基本理念のもと、行事や外出、活動を通じて地域の方と交流を図り、関係を築いていくことで認知症に対する理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。認知症の方々が地域で暮らしていく事ができるような町づくりを目指し、人とのつながりやお互いが支えあえる関係を大切に“地域と共に生きる”ということに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

最近の事業所における特徴的な取組みとして第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」に深化が見られる。即ち事業所は「気軽に訪問できる事業所作り」を重視するが、現在はコロナ禍による面会制限下で家族の要望に基づき利用者とのテレビ電話、事業所での携帯電話を介した窓越し面会等、気持ちに寄り添った支援に努めている。第二に「就業環境の整備」「職員を育てる取組み」に深化が見られる。即ち事業所は県商工会のロボット事業で労働環境の改善・業務の効率化によりケアに結び付ける目的で搬送用ロボットを運用しており、所内の食事・食材運搬業務に活用・検証途上である。併せてノーリフティングケア（抱えない介護）にも取り組んでおり現場から底上げを図るべく法人理事長直轄の委員会を立ち上げ、外部講師等の指導の下、研鑽に励んでいる。又、兼任作業療法士の支援により福祉用具選定や生活動作方法等の実践を重ねている。

自己評価	外部評価	項目(ひだまり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人理念を玄関に掲示している。法人理念をケアの目標とし、チームで取り込んでいる。取り組みのひとつとして、朝のミーティング時にその日の利用者支援の目標をスタッフ全員が発表してからケアを行っている。	事業所開設に伴い策定した理念・基本方針を掲示してケア実践上の原点としている。認知症実践者研修で習得した理念の振り返りを共有し、職員は理念に沿った年間目標を設定、管理者他との半期毎の個人面談で達成度を検証している。朝の申し送りで各職員が当日の支援目標も発表している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議を通じて地域の方にご利用者のご様子などお伝えしている。地域の方から声を掛けて頂いたり、行事について情報を頂いたりと関係を継続している。地域の清掃活動や集まりには参加し、地域の一員としての役割を果たしている。	現在はコロナ禍により散歩やドライブ以外の外出は自粛中だが、本来は日頃から近隣の清掃活動等、地域行事にも参加している。事業所主催の餅つきに地域住民の参加やボランティアの受入れ等、相互交流もある。又、地域小学校との福祉教育を通じた交流等、世代間の交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザー、キャラバンメイトを配置して、地域の相談窓口として利用して頂けるようにしている。地域の小学校の福祉教育で、認知症についての授業を行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議録を作成し、運営推進会議の内容をすべての職員が確認できるようにしている。また、ミーティングを行い、改善点について話し合い、取り組みを行なっている。	会議はコロナ禍により1回、書面による事前照会となった。他は家族、認知症家族の会、市・地域包括支援センター職員等、時に消防団長が参加している。梅雨の前には消防団長から水害対策の準備の助言を得た。又、参加出来ない家族との情報共有を図るべく議事録を送付している。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議（メンバーに市の担当者が在籍）や、地域密着型連絡会（2か月に1回）に出席し、市の担当者との意見交換や情報の提供、要望を伝えるようにしている。	市・地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し情報共有を図っている。市担当者との日頃からの相談・報告や行政主催の研修会へのオンラインでの参加、地域密着型サービス事業所連絡会への参加等を通して連携に努めている。地域小学校の認知症の福祉教育にも協力している。	

自己評価	外部評価	項 目(ひだまり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年2回研修を実施し、全職員が理解、ケアに活かせる様になっている。玄関の施錠については夜間防犯の目的で時間を決めて行っている。居室については命の危険につながるような場合はご家族、主治医と検討し、ご家族ご本人の了承を得て安全確保のために行うこととしている。	研修会等を通して職員は「拘束をしない」必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。定期的に適正化委員会で事例を検証し運営推進会議の中で拘束例はない旨を報告している。夜間赤外線離床センサー等を設置し対応している時もある。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修への参加により高齢者虐待について理解し、不適切なケアに関して学ぶ機会を持っている。研修に参加した職員は施設内での研修を開催して、他の職員に伝達をしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修への参加、また参加した職員による伝達研修を行っている。担当者会議でご家族に説明したり、職員間では権利擁護を意識したカンファレンスを行うようにしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には十分な時間を取って入居者や家族に説明を行い、不明な点が無い様に配慮している。気になることがあればいつでも質問して頂けるように声を掛けている		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護保険更新時や状態に変化のあったとき等に、カンファレンスを実施してご家族のご意見や希望を聞かせて頂いている。 入居者からは、日々の会話や行動の中から要望を汲み取ることで、適時対応している。	コロナ禍ではあるが予約制で面会について午後より各ユニット毎1日1組のみ許可し、介護計画の更新時、意見・要望を把握し、事業所会議・連絡ノート等で情報共有をしている。	

自己評価	外部評価	項目(ひだまり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎朝のミーティングやカンファレンスで職員が意見を出しやすいようにし、日頃からコミュニケーションを図っている。</p>	<p>適宜の職員会議、申し送り、管理者との年2回又は随時の個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や職員目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。職員提案により、事業所専用の移乗板の導入や脱衣室にヒートショック防止の環境整備に繋げた経緯がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>定期的に個人面談を実施し、職員の思いや問題点を把握し、働きやすい職場環境に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>代表者は職員一人ひとりのスキルを把握し、職員に応じた言葉かけや指導に努めている。また法人内外の研修参加の機会を設け支援を行なっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>法人の代表は、多職種交流会や研修会を主催し、職員へも参加の機会を提供している。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前より面会、聞き取りを行い、入居に当たって本人の要望、不安、生活歴等を把握している。本人の望むことを少しでも可能に出来るように環境を整えることで安心できよりよい関係づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(ひだまり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。</p>	<p>入居前より家族と十分話し合いを行い、不安や要望などを伺い準備を行っている。</p> <p>担当職員を決め家族とコミュニケーションを図り、家族の希望に沿えるような支援を行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居前のご本人、ご家族からの情報収集を細かく行うことで、必要とされる支援が何かを考え、他のサービス利用も含め対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>何事も利用者中心に行い、コミュニケーションを図り、一緒に過ごす時間を大切にしている。</p> <p>利用者同士の支えあう場面や、気遣いが引き出せるように支援をしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会や外出時の家族の役割を計画書に盛り込み、一緒に本人の力になれるよう関係を築いている。</p> <p>サービス担当者会議等を通じて情報を共有し、共に支えていく関係づくりに努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>参加している集会や地元の行事の際には、一緒に日程の確認を行ない、付き添いや送迎の支援を行っている。</p> <p>行きつけの場所や美容院などとの関係が途切れないよう支援している。</p>	<p>「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にし、以前は地域行事や馴染みの美容院等に出掛ける事もあった。現在はコロナ禍により面会制限をし、各ユニット毎に午後より1日1組の面会を開始し、気持ちに寄り添った支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(ひだまり )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係を把握し、お互いに声を掛け合って生活できるようその時の表情や思いに寄り添いながら、周囲との交流ができるよう配慮している。職員が間に入ることで関係が築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後も、ご本人とご家族の相談や要望があれば協力し、その都度必要に応じて相談や支援に努め、関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で一人一人の思いや、希望また課題を把握し、職員同士で共有している。ご本人の思いが表情、言動、仕草等から汲み取れるよう日々の関わりを大切にしている。	利用者の基本情報を基にその後はその方に深く関わりをもつことで思いを汲み取り、その強みを「入居者活動表」にまとめて思いの支援に努めている。毎日晚酌希望の実現に向けて支援途上の例やスキンシップで安らぐ看取りの利用者にアロママッサージを導入した例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や関係者から話を伺ったり、ご本人との会話を通してその方の習慣や生活歴をしっかり把握しアセスメントに記入するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日一人一人の生活の現状を記録し把握に努めている。日々の関わりの中でその方の心身の状態や、ペースに合わせた生活、活動を検討している。		

自己評価	外部評価	項目(ひだまり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p><b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b></p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>職員は計画を意識してケアを行い、実施状況を記録している。本人がより良く暮らせるよう課題とケアのあり方についてご本人、ご家族、関係者と話し合い、それぞれの意向を反映している。毎月モニタリングを実施し、必要に応じてカンファレンスを行っている。</p>	<p>介護計画原案を適宜担当者会議で検討し、家族の参加・同意を得て本案としている。利用者担当職員が毎月モニタリングを行い、計画作成担当者が1年を基本に計画を見直している。それに基づき個別ケアマニュアルを作成・更新をしている。「入居者活動表」も活用した立案に努めている。</p>	
27		<p><b>○個別の記録と実践への反映</b></p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の生活、ケアの様子やケアの実践、結果、気づき等を個別記録に記入し職員間で情報を共有している。カンファレンス時にも活用、参照している。</p>		
28		<p><b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b></p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>一人一人の状況にあったサービスや支援について考え対応し、その時々生まれるニーズに対して法人全体でバックアップする体制をとっている。</p>		
29		<p><b>○地域資源との協働</b></p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>その方にとっての地域とは何かを考え、把握するように努めている。感染症の流行の為、現在は個別や少人数での地域への外出をおこなっている。ヘアカットや地元の野菜販売の方に来ていただき、交流を持って頂いたり入居者の方々の生活を一緒に支えて頂いている。</p>		
30	11	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b></p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご本人、ご家族などの希望を聞きながら、希望されるかかりつけ医と事業所で連携をとり、治療や服薬、受診等の適切な医療が定期的に受けられるよう支援を行なっている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。協力医から各利用者に月2回の訪問診療もある。協力歯科医・専門医の受診は主に事業所により行なわれている。協力医の看護師がほぼ毎日来訪し、利用者の健康管理について適宜支援を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(ひだまり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人の携帯電話を使用し、24時間連絡が取れる体制を整えている。状態の変化や内服等について相談ができる体制を整えている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に定期的な治療だけでなく医療機関に情報の提供をしたり、相談にのっている。家族と一緒に病状説明等に立会い、方針についても検討するようにしている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの対応について家族に説明をしている。事業所でできる事を説明し利用者、家族の意向を重視した上で支援ができるように、カンファレンス等で主治医・看護師とも情報の共有を行なっている。	要望があれば看取りを行なう方針である。契約時に「重度化した場合における終末期ケアの指針」で説明・了解を得ている。重度化した際には家族・医師等で話し合いを行い指針に基づき適切な支援を行う方針である。医療との早期連携の下、年に数件の看取りがある。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に研修を実施している。また救急や応急対応マニュアルを解りやすく作成し、全職員が対応できるように取り組みを行っている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を実施しご利用者の方も参加されている。また、地域の消防署や消防団とも連携し被害時の避難場所の確認や連絡方法、協力体制等について確認、指導を受けている。災害時を想定し食糧、飲料水などは最低でも3日分の備蓄を行っている	事業所は大雨時の浸水想定区域に該当しており所定の避難訓練の他、6月は市主催の洪水想定訓練に参加、8月の大雨では母体医院に避難した経緯がある。消防団とも地域交流があり運営推進会議等で適宜指導を受けている。減災対策の備蓄整備と共に近隣住民への声掛けを職員も意識している。	



自己評価	外部評価	項目(ひだまり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者や家族の立場に立って一人ひとりにあった声かけや接し方を心掛けている。会話や周りの環境にも配慮しプライバシーの確保に努めている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮してケアに関わり利用者の呼称等も利用者の納得を得られる対応に努めている。扉に暖簾を活用する等の工夫もある。職員に利用者への言葉かけが不適切な対応には指導や気づきを促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話や言葉だけでなく、表情やしぐさ等からも思いを汲み取り、利用者が選択、決定しやすいうように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、食事、入浴の時間等利用者の意向や体調に合わせて生活できるように支援している。 何事も本人のペースを大事にし、その人らしく落ち着いて暮らしていただけるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪の希望があれば地域の美容院から来て頂いている。 一人ひとりのご利用者のこだわりを理解し、添えるように支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの嗜好については、聞き取りや摂取状況により把握している。 食材の下ごしらえや味付け、盛り付け、食器洗い、食器拭き等は入居者と一緒に協力しながら行なっている。	毎日の献立は利用者の好みも勘案し職員による三食手作りである。事業所の菜園から採れた野菜が食卓に上がったりお好み焼きの出前、地元料理「泥落とし」やパン朝食も可能等、楽しみとなる工夫もある。利用者は役割に応じた食器洗い等を行い、利用者に適した食事環境にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目(ひだまり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者一人ひとりの嗜好、摂取量にあわせ食事は3食手作りで提供している。また、栄養バランスや旬な物を取り入れたメニューで工夫をしている。水分量が少ない方は一回にたくさんの量でなく、合間に摂取できるようにしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食前にもうがいを行っている。食後はうがい、口腔ケアを促し義歯のある方は毎晩ポリドントに浸けて洗浄している。口腔ケアを行うことで、誤嚥性肺炎の予防にも努めている。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄リズムを把握し、その方に合わせた介助を行っている。また、できることはご自分でして頂くようにしている。	排泄管理表でパターンを把握しトイレ誘導を基本としている。退院時の紙おむつから紙パンツへの移行例や利用者に合わせた手すり位置の調整等、状態像に合わせた自立支援を行っている。夜間排泄時の転倒防止の為、赤外線離床センサーを設置する。	
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	その方に合わせた排便コントロールを行い、排便の確認を行っている。センナ茶の提供や水分摂取、適度な運動、腹部マッサージを行い排便を促すよう取り組んでいる。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	早く入りたい方、昼からゆっくり入りたい方など、その方に合わせゆっくりと気持ちよく入浴していただいている。	週2回の午前浴が基本だが毎日の入浴も可能で利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者の体の負担を考慮しシャワー浴や足浴で対応したり、広い介助スペースを有する特浴室等の環境整備の他、同性介助を基本とした対応や冬至の柚子湯も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目(ひだまり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<b>○安眠や休息の支援</b>  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の意向に沿った環境整備を行い、居室でゆっくりと安心して過ごせる空間、寝間を作って夜間安眠していただけるように取り組んでいる。室温や湿度にも気を付けている。		
47		<b>○服薬支援</b>  一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局（薬剤師）に相談できる体制が整っているため薬の目的や用法等の把握に努め確実な服薬介助を行っている。副作用などの情報も頂き状態変化の早期発見に努めている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b>  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活にメリハリがあるよう、一人ひとりの力を活かせるような役割を提供できるように取り組んでいる。また、行事があるとき等は皆さんに楽しんでいただけるように支援している。		
49	18	<b>○日常的な外出支援</b>  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には外の空気に触れていただけるよう散歩や花の水やり、ドライブなど外出の機会を作るようにしている。希望に応じて集会や銀行、墓参りなどへ行く支援を個別に行っている。	コロナ禍で外出は当面の間自粛をしているが天候が良ければ近隣の散歩や季節行事としてお花見・紅葉狩りドライブ等、普段は行けないような場所で「非日常」を楽しんでいる。又、孫の店にお好み焼きを買いに行ったり、金銭の自己管理で銀行に行く等、個別支援も行っている。	
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b>  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	預かり金など金銭は施設で管理しているが、必要な時には必要に応じてお金を使えるようにしている。財布を持たれている方に関しては、ご自身で管理することが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目(ひだまり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が希望された場合、速やかに電話が使えるように対応している。 郵便や荷物が届いた時は本人に手渡し、職員と一緒に確認を行ったり、家族の希望で事業所で預かるなど、個々に対応を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールの窓は大きく中庭がよく見える開放感のある設計となっている。玄関や各テーブルには入居者が育てられた花などを飾り季節を感じて頂けるようにしている。居室へはこまめに訪室し、温度や湿度の調整を行なっている。	開所記念に設えたプランター花壇の花・近隣の果樹園の果実や正月・七夕等、行事の飾り付けや利用者個人の好みの作品を飾っている。又、洗濯物が干し易い様に竿に高低を付け作業し易くしている。更に感染症対策で消毒や換気等にも万全を期している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	館内のところどころにソファやイスを配置してあり、面会者とゆっくり過ごせたり、自由に好きなところで過ごせるようにしている。 クッションなども配備し、希望者には安楽に座っていただけるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れた小物や家具を、自由に置いていただいている。 入居時には、持ってこられるものの配置等をご本人、ご家族と相談しながら部屋作りを行なっている。 掃除方法や配置等も入居者と相談しながら行なっている。	居室にはベッド・エアコン等が備え付けられ、仏壇・鏡台・テレビ等、使い慣れた物や座る生活用の部分畳等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。又、利用者によっては夜間排泄時の転倒防止のため赤外線離床センサーやポータブルトイレを設置する時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室、トイレ、風呂場などの場所が分かりやすいように字の大きさや見える高さを工夫した表札や暖簾を掛けている。 ホールの目に付くところに日めくりのカレンダーを設置し、日付がわかるようにしている。カレンダーをめくることをご自分の役割として行っておられる入居者もおられる。		

V アウトカム項目(ひだまり) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(こもれび)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人理念を玄関に掲示し事務所デスクにも配置、ミーティングや面談においてケアが実践できているか確認を行っている。		
2	2	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	例年は餅つきや夏祭り等行事には地域の方へ参加を呼びかけ一緒に行なっている。去年より感染症の流行により個別対応で外出を行っている。その際地域の方や知人とあいさつを交わしたり交流の機会をもっている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザーやキャラバンメイトを配置して、地域の相談窓口として、利用いただけるようにしている。		
4	3	<b>○運営推進会議を活かした取組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議の内容については、議事録として書面に残し全職員が確認を行なっている。意見については、ミーティングにて改善の取組みを行なっている。		
5	4	<b>○市町との連携</b> 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に市の職員が在籍されており、情報提供を行なったり要望を伝えている。またアドバイスを頂き協力関係を持っている。		

自己評価	外部評価	項 目(こもれび )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を2か月に1度開催し、そこで出た意見は職員に周知、見直しや検討を行っている。居室の施錠についてはご家族や主治医と検討し状況に応じ危険防止目的で行うことがあるが、見直しや検討を行い解除した例もある。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎年研修に参加し、施設内の伝達研修を行い新しい情報を共有している。職員面談の際に職員の心のケアを行っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内では毎年研修に参加し、伝達研修を行い新しい情報を共有している。えんやではマニュアルの読み返しを各自行い、分からないことがあれば、研修参加者に確認をするようにしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	関わる職員は、尋ねやすい雰囲気作りやわかりやすい話し方を心がけ、不安や不明点がないように対応している。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にご家族の参加があり、ご意見を頂いている。ご本人、ご家族から要望があった時はカンファレンスなど行い周知したり、ケアに取り入れるよう検討している。		



自己評価	外部評価	項目(こもれび)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の個人面談を行い、それぞれの意見を聞く機会を作っている。また、カンファレンスやミーティング時に各職員の発言を促し、意見を出し合いその都度話し合いを行って改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の個人面談を行い、各職員の思いやそれぞれが抱えている問題等の把握をし、働きやすい職場の実現に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々のスキルの把握に努め、研修への参加ができるようにしている。カンファレンスに参加し、ケアの必要性や意味について考える機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	多職種連携の研修会や外部での研修に参加する機会を持つことができている。また地域密着型連絡会に参加し、情報交換を行ったり、他の施設見学が気軽に出来る様なネットワークづくりを行うことでサービスの質の向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には個別に担当者が面談を行い、顔を知っていただき不安を減らすようにし、ケアマネや関係機関に聞き取りを実施している。生活歴や本人の様子を知るため、ご自宅への訪問機会を作り、入居後も今までの生活に近い環境作りをし、かかわりが持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目(こもれび )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前にはご家族に施設内を見ていただき、不安や要望をしっかりと伺い準備を行なっている。 担当職員を決めてご家族とも積極的にコミュニケーションを図り、相談しやすい関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居前の情報収集を細かく行い必要とされる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>職員は入居者と一緒に家事活動を行ったり、入居者同士が支え合いながら共に活動できるよう配慮している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>職員は、ご家族と本人がうまく関われるように本人の状態や体調をうまく伝えたり、認知症の理解や受け入れができるように助言や相談に応じている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>買い物やドライブの時など顔見知りの方と逢われたら話をさせていただいたり、行きつけの美容院や行事等に参加できるように送迎の支援をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(こもれび )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の個性を把握し、一人ひとりでできる事を見つけ、その方に合った活動が実施できるよう支援している。密にならないよう感染に配慮しながらも利用者同士の交流や、協力し合う機会が持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用が終了された場合でもご家族からの相談に応じ、必要であれば関係機関との連携を図って支援を続けている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者、ご家族とカンファレンスを行い、思いや希望意向の把握に努めている。ご本人の生活歴等からも思いを汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前や入居後に自宅を訪問したり、本人・家族・関係者に聞き取りを実施しており、個人の特徴・性格・生活歴・嗜好等を把握し、なじみの暮らしに近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活リズムを把握するために24時間シートを活用している。ケア方法が把握しやすいように、個別ケアマニュアルを作成し、カンファレンスを実施している。ケア内容に変更があればその都度記入し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(こもれび )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人がその人らしく生活でき、QOLの向上を図るため、ニーズについて本人、家族、関係者と話し合いを行い意向を反映している。毎月のモニタリングや必要に応じてカンファレンスを行っている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の日々の様子や変化、気づき等細かく個別ケア表に記録している。記録を確認、共有することで、ケアの統一や見直し等に活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の状況に合わせて、ご本人や家族が安心されるような支援方法をカンファレンスにて検討し、必要に応じて報告、法人全体で支援する体制を整えている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の資源を把握するとともに、訪問によるヘアカット、ヤクルト販売、地域の野菜販売の方の協力を得ながら施設内でも地域の方と楽しく関わる機会を持てるようにしている。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2度の訪問診療があり、利用者の状態を主治医に報告、相談することができている。必要に応じて往診を受けたり、病院受診の支援を行っている。日頃から利用者の気になる事等あれば、FAXで相談し指示を受けられる体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項 目(こもれび )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間連絡が取れるようにし、体制を整えている。利用者の状態の変化や気づき等を看護師に相談、早期に適切な医療が受けられるように支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報の提供はもとより、治療や早期退院に向けて情報交換や相談を行っている。病状説明等にも同席し、医療との関係づくりを行っている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期になられた利用者の場合、早い段階から医療・家族等と話し合いを行い、本人・ご家族の思いの確認を行っている。また、状況に応じて医師の指示を受けするなどして、法人全体で支援している。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や事故対応に対して落ち着いて対応できるようにしている。医療機関への連絡等も適確に出来るように研修への参加、マニュアル等の確認を行っている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の対応に関する研修に参加し、職員間で共有、施設内での振り返りを行っている。地域との協力体制を築いており、災害発生時には法人全体でも協力し、避難できるようにしている。日頃から災害について意識し備蓄や避難準備物の管理を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(こもれび)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに適した対応を行い、プライバシーや尊厳に十分配慮した対応を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者やご家族の思いや希望を確認しながら、希望に沿ったサービスが実現できるよう支援している。日々の活動等も、本人が選択できるよう助言等行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者それぞれのペースで生活して頂いている。希望される活動、能力を發揮できる活動を提供し、楽しく活動していただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	離床時、外出時などには髪を整え、また洗面後には化粧水や乳液等をつけるなど、それぞれの入居者の希望に沿って支援している。洋服も自分で選択できるように、たんず等の入れ方や記名をするなど配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事運び、盛り付け等出来る入居者に手伝っていただいている。食べたい献立等もお聞きし、作るように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目(こもれび )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方の好みや量に合わせた食事を提供している。水分摂取量が少ない方には、好みの飲み物やプリン、ゼリーを提供したり飲水の時間以外にもこまめに提供するなど工夫している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は口腔ケアをしていただき口腔内のチェックを行っている。義歯の方は必要に応じて仕上げ磨きをおこないポリドントに浸けている。食事前のうがいは習慣となっている。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄の習慣や特徴を把握し、その方に合わせた介助を行っている。出来る事は自分でして頂き自立できるよう支援をしている。		
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	本人の生活歴等から便秘の原因を理解し、飲み物の工夫や飲んで頂く量等の工夫を行なっている。また、個々の体調にあった運動（テレビ体操・歩行運動等）の働きかけや腹部のマッサージを行っている。必要時には医療との連携も図っている。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの希望やタイミングにあわせた入浴を行っている。入浴の方法はカンファレンスにて職員間で共有し、その方の状況に適した入浴介助ができるよう支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目(こもれび )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<b>○安眠や休息の支援</b>  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	室内の気温、湿度、明るさ等に配慮し、気持ちよく眠られるように支援している。その方の睡眠のリズムを把握し、眠れない状態が続く時にはその原因を考え対応するようにしている。		
47		<b>○服薬支援</b>  一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や用法を理解し、日付の確認や確実に飲めたかを確認。また服薬による状態の変化があれば医療に報告し連携を図っている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b>  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりが喜びのある日々を過ごされるように、生活歴や持っておられる力は何かを話し合い、その方の力を生かした役割等を作り、楽しめる活動や気分転換につなげている。		
49	18	<b>○日常的な外出支援</b>  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在、新型コロナの影響にて日常的な外出支援は控えさせて頂いているが、天気の良い日など屋外散歩や密にならない人数でのドライブを行っている。ご利用者より墓参りに行きたいとの希望があり対応した。		
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b>  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員は入居者がお金を持つ事の大切さを理解して、一人ひとりの希望に応じて使用できるように支援している。現金は事務所で預かり必要時に使えるようにしている。		



自己評価	外部評価	項 目(こもれび )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	郵便物や宅配便は本人に手渡し、職員と一緒に確認を行っている。ご本人が直接お礼の電話をかけたり、連絡をとることができるよう支援し、家族や知人との繋がりが途切れないようにしている。電話が入った時にはスピーカーフォンにして話して頂いたり、手紙を書かれた時は投函できるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間は清潔に気を付けアルコール消毒を徹底している。温度、湿度調整も行っている。ホールの窓から外の天気や果樹、花を見て季節を感じて頂いたり、通学する子供たちの姿も見ることができている。落ち着いて食事ができるよう席の配置も考慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間の所々にソファやイスを配置している。人の多いところが苦手な方や、横になりたい方がゆっくり過ごせるよう畳のスペースで過ごせるよう利用される方に合わせて空間作りを心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にはご家族とも相談しご本人が住みやすい部屋作りを心掛けている。小物や家具は使い慣れたものがあれば持参していただき、ご家族の写真を飾ったり、好みの絵をかけたりとその方に合わせて工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人の動線に配慮し家具の配置やベッドの高さを調整している。タンスの物が自由に出し入れできるようにラベルを貼ったり、介助バーを居室内に設置し自分の力で移動、移乗ができるようにしている。洗濯の物干しは高低をつけ自分に合った高さで作業できるようにするなど一人一人が持つ力を発揮できるように支援している。		

V アウトカム項目(こもれび) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ふれあいの家 えんや

作成日 令和3年12月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6.7	不適切なケアに対する質を高める必要がある。	不適切なケアに対して職員が共通の認識を持つことで一定の質を保てるようにする。	研修の実施だけでなく事例や具体的な場面をあげてカンファレンスや検討する機会を持つ。 家族アンケートを実施し、意見などをケアに反映する取り組みを行う。	1年間 アンケートについてはR4,3月(年度末)に実施予定
2	4	運営推進会議での報告内容について、行事に関する報告が中心となっている。	運営推進会議で安全配慮に取り組んでいることや、工夫している点も伝え、ご意見を頂けるようにする。	ヒヤリハットや事故報告に対する取り組みや対応状況をわかりやすく報告する。	1年間 R4年1月から(1回/2か月の会議時に)
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。